

## 日本免疫毒性学会 平成 20 年度 第1回 総会 議事録

**日 時：**平成 20 年 9 月 11 日，午前 11 時 40 分～午後 0 時 20 分

**場 所：**タワーホール船堀5階小ホール(東京都江戸川区船堀 4-4-1)

本来は年会長が議長を務めることとなっているが，理事長兼務であるため総務担当牧理事が議長を務めることが承認され，議事次第(サイドスクリーン映写)に従って総会が開催された。

**1) 澤田理事長挨拶：**今年度より理事長を務める由報告され，現在の日本免疫毒性学会が抱えている懸案事項として国際化の問題，委員会再編の件ならびに会計の改善などがあり，昨日の理事会での審議を経て本日の総会で議論していただき，益々学会としての発展に努力する旨報告された。

### 2) 会務報告

**①事務局報告：**事務局大槻理事より会員数の推移と会費納入状況が報告された。

会 員	2007.9.19.	2008.4.15	2008.9.10	
	昨年度総会直前	今年度初頭	現在	
会員総数		223	243	*( )内は会費未納により退会 平成 19 年度末にて会費未納退 会を整理
一般会員	264	214	227	
学生会員		6	10	
名誉会員	3	3	3	
賛助会員	0	0	1	会員総数(名誉・一般・学生・賛 助各会員+休会員)
年度入会	} 14	16	24	
年度退会		8	53(36)*	
休会扱い	15	2	2	

役 員	2007 年度	2008.9.10
評議員	48	54
理 事	21	21
会計監査	2	2

会費納入状況	一般会員	学生会員	賛助会員	合 計
会費納入対象者(名誉・休会除く)	227	10	1	238
未納なし	168	6	0	172
未納あり	59	4	1	64
過剰納入	0	0	0	0
2008.9.10 現在の集計				

会員総数の減少は、2007年度末で3年以上会費未納で催告に応じない会員を自動退会としたことによること、学術大会に合わせて新規会員が増加し、年度初頭より20名増えていることが報告された。また、昨年度より会員名簿の発刊を毎年行うこととし、2007年10月に発刊、今年度はエクセルもしくはPDF様式で、HP上のパスワード管理サイトで掲載することが報告された。

## ②学術大会

i) **第14回(神戸)**：事務局大槻理事により第37回運営委員会に報告された第14回学術大会の終了後報告が紹介された。参加者総数152名、学会への返納金111,933円等が報告された。

ii) **第15回(東京)**：現在開催中のため報告は保留された。

iii) **第16回(旭川)**：吉田次期年会長より以下が報告された。

日時：2009年8月27～28日(木～金)

場所：旭川市民文化会館(〒070-0037 旭川市7条通9丁目 TEL:0166-25-7331)

サブテーマ(案)：発達、環境、子供と免疫毒性

特別講演(案)：Dr. Dori Germorec (NIEHS)

ワークショップ：例年通り

英語セッション(案)：半日程度を予定、但し、KoreaとSOT-ISS (Society of Toxicology, Immunotoxicology Specialty Session)との兼合いは検討中

ランチョンセミナー(案)：例年通り開催するも会場は別になる見込み

懇親会：8/27夜に向かいのホテル(旭川グランドホテル)で開催予定

理事会(案)：地麦酒館(大雪地ビール館)の予定

## ③委員会報告

i) **広報編集委員会**：藤巻委員長より Immunotox Letter の発刊状況について、24号(12巻第2号)は2008年1月17日に、25号(13巻第1号)は2008年6月28日に、それぞれHPに掲載、MLにて配布という形で発刊された旨報告された。24号より学会国際化の一環として日本語版と英語版に分けて発刊されていることが報告された。

また学術大会アンケートについては、第12回大会より実施しており、意見に対する運営委員会からの回答も Immunotox Letter に掲載されている由、また今回は選択肢による設問も準備し、同様のアンケートを採っていることが報告された。

ii) **ホームページ委員会**：委員長大槻理事より前回理事会以降の更新について概要、特に、News Letter サイトで創刊号からのコンテンツをカテゴリー別に個々の記事について閲覧できるように更新された旨報告された。

また、運営委員会決定事項としてバナー広告について2008年5月27日に211社に依頼状送付、また牧理事により日本トキシコロジー学会の際に展示社に直接依頼をして頂いた点、報告された。しかし、現状では1社のバナーに留まっていることが報告された。

iii) **その他委員会**：事務局大槻理事より運営委員会については、前回理事会以降2007年12月10日(第37回)、2008年4月21日(第38回)、同7月14日(第39回)が開催されたこと、本年度より北條前理事に代わり中村理事が参画されたこと、また、大沢先生、高橋先生には運営委員会顧問として参加していただいている点、報告された。

その他の委員会については、今年度からの再編案が審議事項に出されているため、会務報告は省略された。

#### ④SOT-ISS との交流

事務局大槻理事より、例年3月に開催のSOT-ISSについては、2007年中村理事、2008年香山理事が日本免疫毒性学会からの派遣という形で参加され、2009年には野原理事が出席されることが報告された。野原理事は、Symposium “Transcriptional changes in immunotoxicology: Transcriptional factors, signal transduction and epigenetics” のオーガナイザーとして活躍され、SOT-ISS program committee member になられたことが報告され、そのような立場で本学会会員が活躍されることは学会としても喜ばしいことであることが報告された。

### 3) 審議事項

#### ①会計：

i) 平成19(2007)年度会計報告(案)：吉田(貴)理事より資料に沿って2007年度会計報告が説明された。

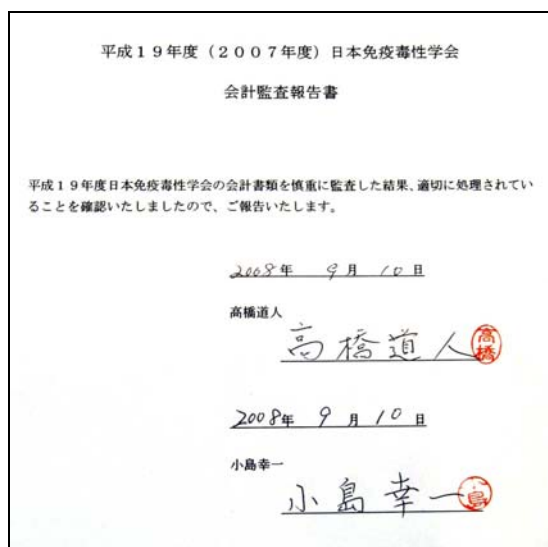
収入

科 目	補正予算	決算	備 考
前年度(2006年度)繰越金	1,491,645	1,491,645	2005年度繰越実績 1,236,002円
H19年度(2007年度)会費	1,416,000	1,440,000	内訳(一般会費@6千円×237、学生会費@2千円×9)
第12回学術大会戻し金		111,933	
雑収入	1,000	1,154	
収入合計	2,908,645	3,044,732	

支 出

科 目	補正予算	決算	備 考
第15回学術大会(東京)運営費	600,000	600,000	於：東京
会議費	250,000	427,060	会議費(委員交通費含む)
通信費	50,000	179,862	切手・葉書、宅配便、電話(回線工事費：15,750円)
News Letter 作製費	150,000	120,750	2号分(印刷は保存用のみ)
事務費	200,000	81,824	文具、振込料金、事務局旅費等
ホームページ改善費	903,210	903,210	理事会の承認のもとに新規にHPを設置
ホームページ維持費	200,000	290,796	見積もり 204,435円
予備費	555,435	441,230	次年度(2008年度)への繰越金
支出合計	2,908,645	3,044,732	

ii) 監査報告：小島監査より、2008年9月10日東京ガーデンパレスホテルロビーにて実施された2007年度会計監査結果について会計は適切に処理されていることが報告された。



以上の報告について議長より諮問され承認された。

iii) 平成 20 (2008) 年度補正予算 (案) : 吉田理事より説明が行われた。

収 入

(単位円)

科 目	暫定予算	補正予算	備 考
前年度(2007年度)繰越金見込み	555,435	441,230	
H20年度(2008年度)会費	1,416,000	1,422,000	内訳(一般会員227名、学生会員10名、賛助会員1×2口、2008年9月現在)
ホームページ・バナー広告	200,000	240,000	4社程度見込
雑収入	500	1,000	銀行預金利子 2007年度実績 1,154円
収入合計	2,171,935	2,104,230	

支 出

科 目	暫定予算	補正予算	備 考
第16回学術大会(旭川)運営費	600,000	600,000	於:旭川
会議費	250,000	400,000	会議費(委員交通費含む)
通信費	50,000	50,000	切手・葉書、宅配便、電話
News Letter 作製費	150,000	150,000	2号分(印刷は保存用のみ)
事務費	200,000	200,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ維持費	200,000	250,000	2007年度実績 290,796円
予備費	721,935	454,230	次年度(2009年度)への繰越見込み
支出合計	2,171,935	2,104,230	

議長より本報告について諮問され満場一致で承認された。

iv) 平成 21 (2009) 年度暫定予算 (案) : 吉田理事より説明が行われた。

収 入

(単位円)

科 目	暫定予算	備 考
前年度(2008年度)繰越金見込み	454,230	
H21年度(2009年度)会費	1,428,000	内訳(一般会員会費納入義務者数 238名、2008年9月現在)
ホームページ・バナー広告	240,000	4社程度見込
雑収入	1,000	銀行預金利子 2007年度実績 1,154円
収入合計	2,123,230	

支 出

科 目	暫定予算	備 考
第17回学術大会(***)運営費	600,000	
会議費	400,000	会議費(委員交通費含む)
通信費	50,000	切手・葉書、宅配便、電話
News Letter 作製費	150,000	2号分(印刷は保存用のみ)
事務費	200,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等
ホームページ維持費	250,000	2007年度実績 290,796円
予備費	473,230	次年度(2010年度)への繰越見込み
支出合計	2,123,230	

議長より本報告について諮問され満場一致で承認された。

v) **バナー広告と賛助会員会費**：事務局大槻理事よりバナー広告については、5,000円/月、契約6ヶ月単位(30,000円/半期)で依頼していることが報告され、諮問の結果承認された。

また、賛助会員については、特典として現在は学術大会抄録集と参加証1部の送付を行っている。現行では一口20,000円で幾口でも応じる規約となっているが、企業からの本学会への援助を考慮すると年間バナー広告代金と近似の額が適当と思われる、一口50,000円と改定したい旨提案され、本提案は満場一致で承認された。

②学会会則・諸規定

事務局大槻理事より、以下の会則・諸規定の変更が提案された。変更箇所は、会務報告での自動退会の取扱い、審議事項での賛助会員の会費ならびに後述の各種委員会について再編可能な文言に変更することについてである。

改定箇所	旧	改定部分	新
会則第5条 (2)	会費を滞納したとき。	文章変更	会費を、一般会員は3年以上、学生会員は1年以上延滞し、かつ催告に応じないとき。

諸規定[入 会及び会 費規定]3	賛助会員 年額20,000円	下線部変 更	賛助会員 年額 50,000円
諸規定[委 員会規定]4	委員会として、運営委員会、 試験法委員会、広報・編集 委員会、将来構想委員会等 をおく。	下線部削 除	委員会として、運営委員会等をお く。

本提案は、満場一致で承認された。

③ 人事：澤田理事長より以下の人事(案)が提案された。

- i) 名誉会員推薦 大沢基保:前帝京大学薬学部, 現(財)食品薬品安全センター・秦野研究所  
北條博史:前昭和薬科大学, 現(財)結核予防会宮城支部 複十字健診センター

ii) 理事・評議員 理事:候補者無し

評議員:2名の評議員の推薦による候補者

- 高野 裕久 国立環境研環境健康研究領域 領域長
- 姫野 誠一郎 徳島文理大学薬学部衛生化学講座 教授
- 李 卿 日本医科大学衛生学公衆衛生学 講師
- 西村 泰光 川崎医科大学衛生学 講師

新名誉会員:諸規定による「理事会の承認を得た場合」として評議員に推薦

本提案は、満場一致で承認された。

iii) 各種委員会：澤田理事長より運営委員会からの提案として、以下の委員会再編案が提出された。

旧	委員 (下線:委員長)	新	備考	委員 (下線:委員長)
広報編集	<u>藤巻</u> 手島 筒井 野原 角 田	学術・編 集	編集と学術を併合	<u>藤巻</u> 手島 筒井 野原 角田 姫野
学術	<u>澤田</u> 荒川 大槻 北條			
HP	<u>大槻</u> 香山 藤巻 牧	広報	広報がHPを吸収	<u>大槻</u> 藤巻 香山 牧 中村(亮):
試験法	<u>澤田</u> 筒井 中村(和) 北條 牧	試験法	学術大会 WS, 試験法, ガイ ドライン	<u>筒井</u> 中村(和) 牧 手島 久田
将来構想	<u>北條</u> 荒川 高 橋 中村(和) 筒 井	将来構想 国際化	休務 将来構想委員会の報告を受 け, 「国際化」として独立し活 動	<u>中村(和)</u> 荒川 香山 野原

本提案は、満場一致で承認された。

新委員会委員長より今後の方針等について所信表明があった。

学術・編集委員会藤巻委員長：学術との併合によることで、Immunotox Letter の更なる学術的な充実を図るとともに、姫野新委員の活躍を期待している。

試験法委員会筒井委員長：学会主導の試験法標準化等についての共同研究の実施、学術大会での情報収集さらにワークショップでの継続的な公表を実施していく。

国際化委員会中村委員長：SOT-ISS との関係構築については、旅費等の相互均等性が課題である。日本からの派遣に対して学会として交通費補助が可能になることが望まれる。SOT からの招聘には、先方は早いテーマ設定を望んでいる。韓国での免疫毒性研究会の動向報告も踏まえて今年度の学会に Dr. Heo Yong が参加されているが、アジアでの本学会の指導的役割に鑑みて交流を深めたい。

**iv) 次々期年会長：**澤田理事長より第 17 回(2010 年)学術大会年会長に国立環境研 藤巻秀和理事が推薦され、満場一致で承認された。

#### **4) 名誉会員推戴式**

大沢基保先生ならびに北條博史先生に対して名誉会員証及び記念品の贈呈が行われた。

文責：事務局 大槻剛巳(川崎医科大学 衛生学)